

# 中心市街地遊休不動産活用事業

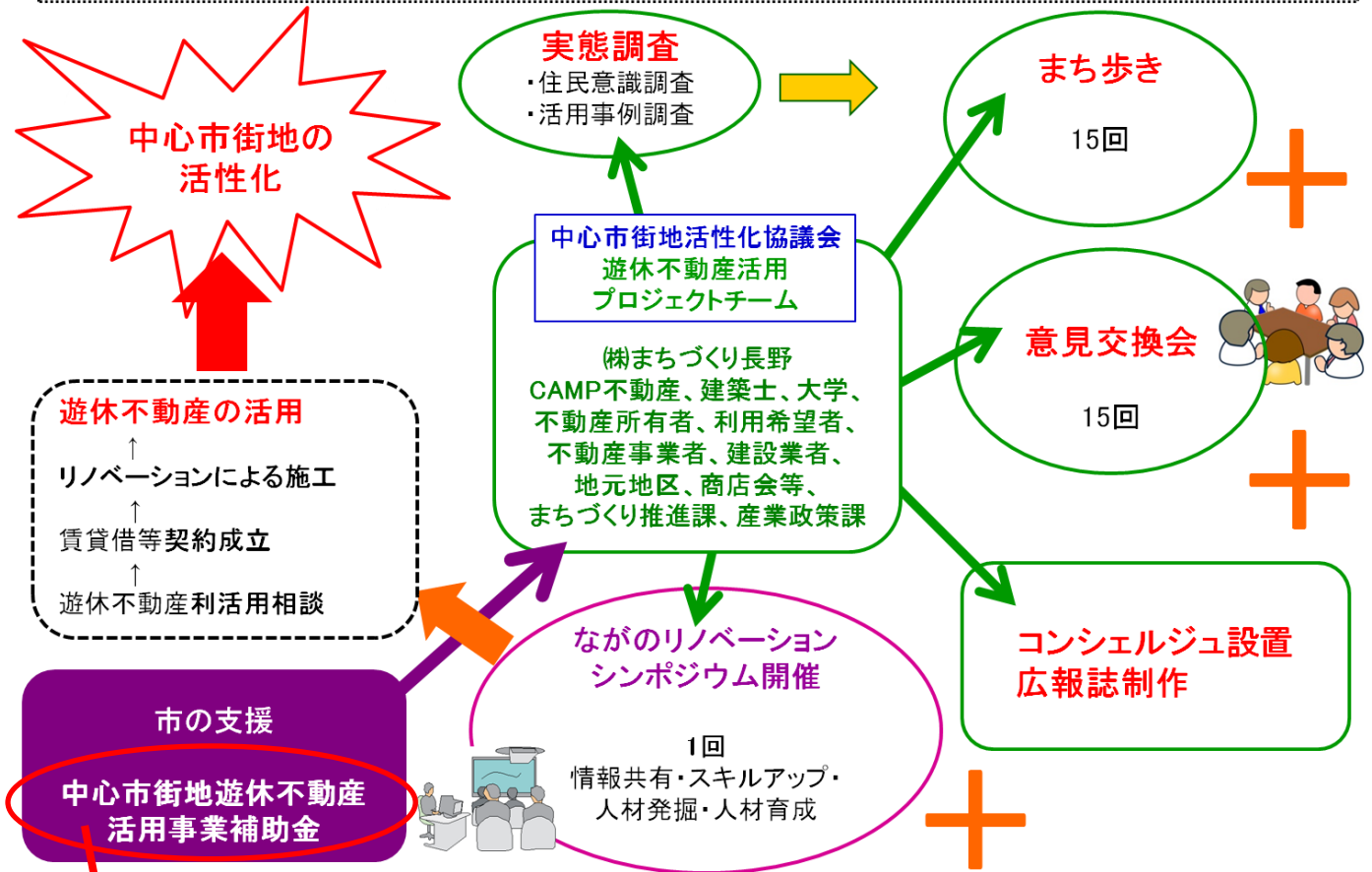
## 1 事業の目的

### ●中心市街地における遊休不動産の有効活用による定住人口・交流人口の増加

- ・インフラが整備されている中心市街地の利用可能な遊休不動産の有効活用を図る。
- ・多様な主体の役割分担による、遊休不動産の活用に至るまでの一連の活動をシステム化する。
- ・官民連携により中心市街地全域へリノベーションによる有効活用を広めていく。

## 2 事業の概要

- 1 事業主体：中心市街地活性化協議会「遊休不動産活用プロジェクトチーム」
- 2 事業内容：まち歩き 15回程度、意見交換会 15回程度、コンシェルジュ設置、広報誌制作、ながのリノベーションシンポジウム 1回程度



### ○中心市街地遊休不動産活用事業補助金 【中心市街地エリア対象】

- 対象経費：(1)事業運営に係る人件費  
(2)事業運営に必要な調査・広報・交流活動等に係る経費  
(3)専門家派遣に係る経費  
(4)事業運営に係る一般経費

補助金額：500万円(国支出金200万円、一般財源300万円)

### 3 事業の効果

#### 長野市への効果

- ・定住、交流人口増加
- ・企業誘致等による雇用者増加
- ・地域経済活性化
- ・民間活力増進
- ・生活満足度増加
- ・税収増加
- ・支援制度への評価 など

リノベーション事例：元文房具会社→事務所、カフェ等



### 4 事業上の課題と対応方針

| 事業上の課題                         | 対応方針  |
|--------------------------------|---|
| 事業推進体制の構築が必要である。               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・CAMP 不動産(ナノグラフィカ、(株)マイルーム他)等民間の協力を得て事業を推進。</li> <li>・全体のコーディネートや個別のプログラムの中心的役割は経験者や専門家が担う。</li> <li>・上記民間団体の協力を得やすくするため、委託料も補助金の対象とする。</li> </ul> |
| 事業遂行のためには、不動産所有者の理解・協力が不可欠である。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針は、「民間が主導し、行政が支援する」</li> <li>・民間の取組による活用事例の紹介、利用希望者のニーズがあることを理解してもらう。</li> <li>・遊休不動産の存在する地元地区、商店会から協力するよう説得してもらう。</li> </ul>                  |
| 関係機関との連携、全世界へ向けての情報発信          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国、県との連携(総務省「移住・交流情報ガーデン」、県「銀座 NAGANO」の活用)。</li> <li>・庁内連携(移住等の希望者の多様なニーズに対応するため、窓口の一本化を図る。)</li> </ul>  |

### 5 事業スケジュール

| 平成 27 年度(種をまく年)  | 平成 28 年度(花開く年)  | 平成 29 年度(実を結ぶ年)   |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●実態調査(住民意識・活用事例)</li> <li>●まち歩き(15 回程度)<br/>善光寺界隈・権堂地区・遊休不動産見学会</li> <li>●意見交換会(15 回程度)</li> <li>●ながのリノベーション・シンポジウム(1 回程度)</li> <li>●コンシェルジュ設置</li> <li>●広報誌制作</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●実態調査(活用者と地域との係り)</li> <li>●まち歩き(20 回程度)<br/>善光寺界隈・権堂地区・中央地域・長野駅前・遊休不動産見学会</li> <li>●意見交換会(20 回程度)</li> <li>●ながのリノベーション・シンポジウム</li> <li>●コンシェルジュ設置</li> <li>●広報誌制作</li> <li>●遊休不動産有効活用案の検討・決定</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●まち歩き(30 回程度)<br/>中心市街地全域</li> <li>●意見交換会(30 回程度)</li> <li>●ながのリノベーション・シンポジウム</li> <li>●コンシェルジュ設置</li> <li>●広報誌制作</li> <li>●遊休不動産有効活用案の検討・決定、事業化へ</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・リノベーションによる遊休不動産活用の検討を始める。</li> <li>・中活協議会に多種多様な人材が集まる。</li> <li>・まちを歩き、まちを知り、どんな機能が必要かを、様々な立場から考え話し合う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中活協議会に集まる事業関係者の相互理解が進み、横の連携が強化される。</li> <li>・活用案が提案され、多様な立場からの検討が進む。</li> <li>・まちに必要な機能である活用案に決定。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活用案が提案され、多様な立場からの検討が進み、具体案が決定。</li> <li>・事業着手、完了。</li> <li>・活用までのシステムが構築され、好循環による活用事例増加。</li> </ul>   |

・定住人口・交流人口の増加